

仮説に基づくテスト

気づきが得られる一日ワークショップ



協賛：アジアパシフィックシステム総研株式会社

概要

ソフトウェアテストの分野では専門用語、プロセスモデルおよびツールが散乱しています。近年この分野は大きな進歩を遂げたものの未だ完全な状態に近付いているという論理的な理由を述べる事ができません。アクティビティに基づくモデルによるテストの一般的なアプローチは戦略立案、計画、設計、自動化、実行、管理から構成されています。年々、これらの活動を一度に完了させる方法から短期間のプログラム追加で活動を繰り返すことによるアジャイルな開発方法へと移行してきました。しかし未だ“保証”の概念は捉えどころのないものようです。

ワークショップの目的

ソフトウェアテストの典型的なアプローチはプロセス、ツールおよびのクリーンなソフトウェア作成を確実にするテスト担当者の経験に依存しています。代表的な評価の方法はテスト戦略と計画、テスト設計、自動化および実行と報告の活動から構成されます。これらの活動が良好な結果をもたらすことを確実にするには、テスト担当者の経験とスキルが重要な役割を果たします。

このワークショップの目的は STAG によって長年テストおよび検証され続けてきたものとは異なるテストのアプローチを提供することです。このワークショップは鍵となる原則、技術および潜在的デフェクトの仮説をカバーして非常に効果的で効率的なテストを可能にします。

仮説に基づくテスト (HBT)

仮説に基づくテスト (HBT) は科学的なテスト工学およびゴールに強く焦点を当てた方法論です。HBT 方法論は核となる主題である潜在的デフェクトの仮説および戦略とテストケース、測定方法およびツールの構築に基づいて作成されています。仮説に基づくテストは STAG のデフェクト検出技術である STEM2.0

(STAG Text Engineering Method) によって強化され、過去 8 年以上にわたって様々な企業に適用されて来ました。STEM を使用することにより導き出されるビジネス上の利益は開発/テスト工数の削減、ソフトウェアサポート費用の低下および開発の加速です。

講師 T Ashok



クリーンなソフトウェアの構築に特化した STAG 社の創設者であり CEO。

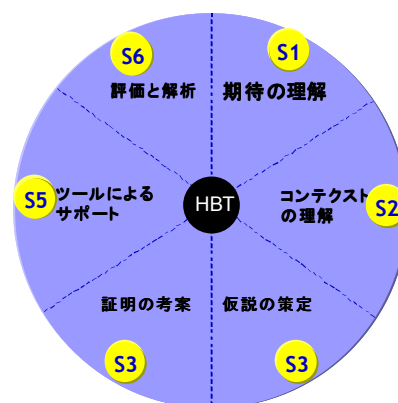
卓越性に関し情熱的で、クリーンなソフトウェアを構築する方法論の発明を使命としている。知識の共有に熱心で、ワークショップを開催し主要なフォーラムにおいて講演を行っている。STAG では効果的テストのための方法論およびツールを開発する科学と工学に深く参加している。

IIT Chicago およびインドの Anna 大学を卒業し 23 年の実務経験がある。テスト 2008 会議において“思索と質問志向のテスト工学アプローチ”により“思考のリーダーシップ賞”を受賞。

(注) HBT : Hypothesis-based testing

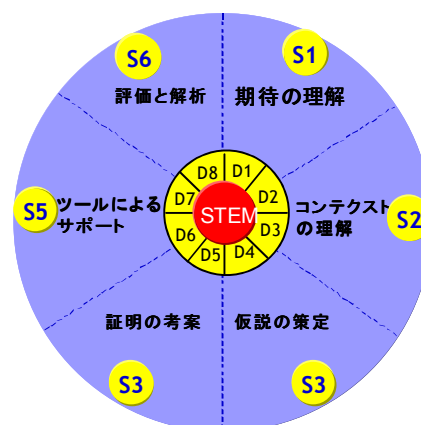
HBT 方法論はテストすべきソフトウェアに対する 6 段階の評価から構成され、各段階が科学的なテスト工学の方法論である STEM2.0 により強化されています。

第 1 段階 (S1)	期待の理解 顧客の期待をいかに科学的に理解するかを扱います。
第 2 段階 (S2)	コンテキストの理解 製品の理解、ビジネス要求の導出、技術的フィーチャ、属性および最終的にクリーン度基準の識別を扱います。
第 3 段階 (S3)	仮説の策定 識別されたクリーン度基準に影響する可能性のある潜在的デフェクトタイプの仮説を扱います。
第 4 段階 (S4)	証明の考案 デフェクトを段階的に発見するための品質レベルの考案を扱います。また、実施が必要な様々なタイプのテストと仮定されたデフェクトを発見するのに最適なテストシナリオ/ケースを設計するテスト技術を識別するための方法も扱います。さらに加えて、これは仮定されたデフェクトの発見を完了し証明できるテストシナリオ/ケースの設計から構成されます。最後に品質測定、プロセスの追跡およびリスクの評価を確実にするための適切な測定基準が設計されます。
第 5 段階 (S5)	ツールによるサポート テストを実施するには、テストハネス/ドライバ、テストベンチやテストスクリプトのような技術サポートにたよる必要があるかもしれません。この段階はツールの必要性および柔軟で堅固な自動化サポートを理解するための科学的なアプローチを可能にします。
第 6 段階 (S6)	評価と解析 この段階はテストの実施、結果の測定および品質の解析、進捗および理にかなった判断を脅かすリスクを扱います。



STEM2.0 は他方で HBT の方法論を強化する方法です。STEM は 8 個のディシプリンと 32 個のコアコンセプトからなり、ディシプリンの格段階が合理的で科学的な方法で実施されることを可能にします。HBT の格段階はいくつかの STEM2.0 ディシプリンと関連付けられ、それゆえ各段階の結果が効果的であることが保障されます。

HBT の段階	STEM のディシプリン
S1-期待の理解	D1 – ビジネス価値の理解
S2-コンテキストの理解	D1 – ビジネス価値の理解
S3-仮説の策定	D2-デフェクトの仮説
S4-証明の考案	D3 – 戦略と計画 D4 - テスト設計 D6 – 可視性
S5-ツールによるサポート	D5 – ツールの使用
S6- 評価と解析	D7 – 実施と報告 D8 – テスト管理



ワークショップの内容

この一日ワークショップでは HBT 方法論の概要が示され、STEM2.0 を使った実装への応用が討議されます。これは期待を理解し、期待が真に満たされていることを確実にするための正式なベースラインの設定を可能にします。その後、ゴールに真にフォーカスを当てたテスト戦略および充分性が証明された適切なテストケースの立案を可能にします。それは判断を可能にするゴールに焦点を当てた測定基準の考案に着目することを支援します。

講師 STAG Software Private Limited
Ashok 社長 (逐次通訳付き)

ワークショップの利点

このワークショップでは貴組織における開発とテストの慣行を考え直し再検討します。これは、工数の最適化、時間短縮および生産性向上を可能にします。このような試練の時期において特に重要なワークショップです。

実施形式

ワークショップはクリーンなソフトウェアに情熱を傾ける講師の 23 年におよぶ豊富な経験を使って構成されています。実施形式はゲーム/調査および自分の考えや行動などを深くかえりみる形式をとり、より深い理解と新たな考えの誘発を可能にします。

参加対象者

このワークショップはソフトウェアの開発/テストを行ったり管理したりする熟練したプロフェッショナルを対象としています。

- ・プログラム/プロジェクトマネージャ
- ・エンジニア/テストマネージャ
- ・テストリーダー、テストアーキテクト

お申込み

株式会社アイ・ブイ・スクエア
TEL:03-6419-9327

受講料：60,000 円/人

：50,000 円/人
(1 社・3 名以上)

お申し込みは、別紙申込書をご使用ください。ご請求書をお送りします。10 月末までのお振込・ご入金となります。

開催日・会場

開催日:2009 年 11 月 5 日(木)

会場：アジアパシフィックシステム総研(株) 内 1 階教室

登録:

午前 9:00

ワークショップ:

午前 9:30-午後 5:30

(昼食はお弁当をご用意いたします)